

令和4年度 第2回湯河原町総合教育会議 会議録

日 時 令和5年3月14日（火）午後1時30分～午後3時9分

場 所 防災コミュニティセンター2階 205 会議室

出席者

（委 員） 富田町長、菅沼教育長、貴田委員、西山委員、山田委員、
深澤委員

（教育委員会） 富士川教育グループ参事兼学校教育課長、露木学校教育課副課長
兼指導主事、村松社会教育課長、川瀬図書館長、飛田美術館長

（事 務 局） 高橋副町長、内藤政策グループ参事、目黒地域政策課長

傍聴者 4名

1 開 会

2 町長あいさつ

皆さんこんにちは。大変お忙しい中、第2回目の湯河原町総合教育会議ということで、皆さんにはお集まりいただきまして、ありがとうございます。梅の宴も無事に終了しまして、客足が速報値ですけれども、昨年よりも1割ぐらい増えたということでもあります。梅が終わると桜という本格的な春を迎える中、それは年度末を表すということで、本当にお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。本日の案件にあります重点項目のチェックについては、皆さんからご意見をいただき、また、報告についても2件あります。この2件については、今後の湯河原町の重要なことでもありますけれども、皆さんからの意見をいただきながら、事務局としての意見もいただきながら、活発な会議になればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

3 教育長あいさつ

皆さんこんにちは。町長におかれましては、年度末のお忙しい中、総合教育会議を開催していただき、ありがとうございます。教育委員会教育委員におかれましては、3月17日に教育委員会定例会を予定している中、出席いただきありがとうございます。教育行政の現状と来年度の予算について、この挨拶の中でお伝えします。学校教育では、先週8日に中学校卒業式が執り行われ、新たな目標に向かって3年生が飛び立ちました。小学校では来週22日に卒業式が執り行われる予定で、各校では忙しい学年末を迎えています。社会教育では、文化祭や二十歳のつどいなど、様々な事業を実施してまいりましたが、最大の

事業であります湯河原温泉オレンジマラソンを 26 日に開催を予定しております。4 年振りの開催であり、職員に経験者がいない中ですが、無事に開催ができますよう、関係団体と協力をしながら、準備を進めているところです。

3 月 6 日に湯河原町議会が閉会し、令和 5 年度の当初予算が成立しました。その中で、学校教育では小学校給食の公会計化、給食費の口座振替、町負担による給食費保護者負担額の据え置き、本町の魅力ある教育の継続のため 3 人の A L T の任用と、情報教育の推進のため、学校外でのタブレット端末の通信費の全額町負担などの予算、社会教育では、子ども・子育て支援の充実のための学童保育所保護者負担金の月額 2,000 円の引き下げ、町民レクリエーションのつどいの関係予算をはじめとする人と人とが繋がりを取り戻すための関係予算など、これら教育行政の充実などの予算編成がなされており、町長におかれましては、この場をお借りしてお礼申し上げます。最後になりますが、本日の次第にあります中学校給食におかれましては検討状況を、今後の町立幼稚園及び小・中学校のあり方に関する意見交換会については結果を報告させていただき、場合によっては皆さんに意見を頂戴してまいりたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4 案 件

(1) 教育大綱に係る基本目標の重点項目に対する検証について…資料No. 1

○資料No. 1 を説明（地域政策課）

○質疑

（西山委員）

…感想的なものになります。よく言われていることですが、学校教育に関しては、児童・生徒が集団生活の中で色々な考え方に接するという、その中でお互い認め合い、協力し合い、励ましあいながら、お互いに切磋琢磨していくということ、それが段階的に必要となります。そうしていくことで一人一人の子どもたちが能力などを伸ばしながら社会性を身に付けていくことが、教育に関わるものとうたわれていますし、そのとおりだと思います。そういった考え方の下、この湯河原町の教育大綱が方向性を示されている、生きる力を子どもたちに育む、その三つの力として、確かな学力、豊かな心、そして健やかな身体というものを重点にして、それぞれの力を伸ばす事業・施策として、先ほどの説明の中に反映されていたのかなと思います。今回の評価が「A」だからとか「B」だからとかではなく、今の教育現場では様々な問題が出ているものと思われれます。教育委員会だけでなく、町部局、先生方、それから地域の方々にもお願いしなくてはならないかもしれませんが、

やはり学校教育で一番大事なことは、学校教育を支えていく、社会教育にも含まれる考え方ですが、支えていく全ての部門、人々が連携をしながら事業を進めていくことが、私は大事ではないかなと思います。そういった意味で、全体的なまとめができているものと感じました。

(教育長)

…教育委員会事務局といたしましても、将来湯河原町を担う児童・生徒の育成、生き抜く力を育てていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくをお願いします。

(町長)

…これは令和3年度の検証ということで、コロナの影響もあって、B評価もあるわけですが、例えば、6ページのICT教育では、教育委員会の皆様のご提案でLTEを全ての皆さまにということで、結果的にはコロナがありましたけど、その時は想像もしていなかったもので、全ての家庭に安定的な勉強を受けられる環境をとという意見を思い出しました。結果的にはコロナが影響したものという考えた方もでき、少し意味合いが違うかもしれませんが、施して良かったことというものです。余談ですけども、国の方には再々ですけども、この部分の費用もみてほしいという要望はしていますが、先行して環境を整備することができたので、この6ページのような評価に至ったのかなと思います。皆さんの関心度が導いてくれたものと考えます。

5 報 告

(1) 中学校給食について…資料No.2

○資料No.2を説明（学校教育課）

○質疑

(貴田委員)

…給食調理場新規建設等費用がデリバリー方式だと不透明であり、概算ですと4億円かかるということで、費用面でみても親子方式の方が優位であるということと、現在の小学校給食と同様に湯河原町の独自性が存在しつつ、質の高い給食が提供できる魅力があると思います。まだ、決定ではなく、これから検討を進めていくとは思いますが、現時点では親子方式の方が魅力的であると考えています。

(教育長)

…教育委員会事務局といたしましては、親子方式で決定したわけではありませんけれども、数年間、協議・審議し、保護者の方々や生徒の方々は給食を待ち望んでいることと思います。事務局としても、暫定的とはいえ、給食の問題を推し進めるためにも、突破口という表現が適切かわかりませんが、進めて協議したいなと思っております。そういった中で、先ほどの説明にありましたとおり、建築的な助言が必要になりますので、親子方式の協議に入ったとしても、数年間かかってしまうのではないかと想定される中で、そうなるとうちにお待ちいただくことになり、暫定の暫定という形になってしまうのですが、その間、お弁当を作るのが大変なご家庭があることが、再三教育委員会の定例会の中でも、山田委員や深澤委員からご意見をいただいております。ただ、事務局としましては、完全給食を目指しておりますので、暫定の暫定とは違うのですが、また、そこに時間が要するのであれば、お弁当を何らかの形で配膳するべきかなと考えていますので、親子方式も含めて家庭を支援する給食を検討するべきかどうか、もしその辺もご意見があれば頂きたいところです。

(富田町長)

…今、教育長からこの資料以外の部分で、どの方式を取り入れるにしても、しばらく空白の時間ができるだろうという想定の中、この空白の時間をどのように埋めていくかという一つの提案として、全ての皆さんにではなく、どうしてもお弁当を作ることが時間的にも、様々な要因で大変だというご家庭を希望的に受ける、暫定の暫定的な話になるのですが、もしその辺で何かご意見があればこの際ですので、どうできるか、どうなるかということは別にして、自由にご意見をいただきたいのですが、いかかでしょうか。

(山田委員)

…ありがとうございます。教育長からの一旦のお弁当というのは良いアイデアだなと感じております。一方でやり方というのが重要かなと思いました。経済的に困窮な世帯のお子さんだけとなると、お弁当を持ってきている子はそういうご家庭なんだと見られてしまうと、すごく大きな影響があるかなと思います。本当は言い出したいが言い出せない、町の宅食便でも本当は手をも上げたいがなかなか貰いにくい、というご家庭もあるのも事実かなと思いました。その中で、見せ方として一律どのご家庭でもお金を払えばお弁当の配布もできますよと、全員にアナウンスしたうえで、経済的に困窮な世帯のみ、

裏でサポートしているような形式にすると、実際にお弁当を作るのが難しいだとか、500円なら家庭では作らずに栄養バランスの良いお弁当をお願いしたいというご家庭が一定数いることが、結果として判断できるのではないかと思いますので、実験としてやってみることは良いと思います。

(西山委員)

…実施する方向で検討していますが、町としてかなり大きな事業ということで、実施するか否か、お金もかかるものですから、なかなか答えを出しにくい部分もあるかと思います。ただ少なくとも、この中学校の学校給食にかかる部分は、何年も前から検討していて、当時の保護者の希望はこうであったが、実際に給食を受ける中学生の希望が少なかった。そのような経緯があって一度、検討自体も頓挫したというような部分がありますが、根本は前回の頓挫した部分の資料、様々な準備をした資料から活かされていき、次に進んでいくべきかと思っています。例えば今回問題になる建築基準法に係る許可申請ですが、例えば、通常だと申請してから認められるまでこのくらいの期間要しますだとか、工事となるとこのくらいの期間かかりますという、ここではなかなか不確定な部分になりますから、いい加減なことは言えない部分があると思いますが、そういったものも念頭にしたうえで進めていかないと、今のお弁当の補助に係る問題でも、中途半端になってしまう恐れがあると思います。もちろん、一つの事業を行うにあたり様々なケースを考えなくてはいけなく、各家庭の事情も違いますので、一人一人のご家庭に合わせて、サポートするというのが非常に厳しい部分だと思いますので、この先の手順がある程度見越したうえで、事業計画をすすめてほしいと思っています。

(冨田町長)

…事務局でまた訂正してもらえばいいのですが、記憶で申し上げると、平成26年に調査を始めて、そのときには保護者、子どもたちはお弁当の方がいいというような意見から始まり、これまで続けていく中で、最終的には自校方式を中学校で進めることになりました。その背景には、給食センターのような施設を建て、小学校と一括で調理したらというアイデアも当時ありましたが、保護者を中心とした関係者から、各小学校の給食の独自性が失われ、困るといった意見があり、最終的に中学校は自校方式ということになりました。しかし、気が遅れるほどのインシヤルコストと、あの場所に中学校が今後永久的にあるのかという視点もあり、そこまでのインシヤルコストをかけられないのではないか、というような考え方ももう一方であり、西山委員もおつ

しゃるように、苦難を越えながらということが、逆に遅いのではないかというような、そういう声に変わってきています。暫定的にやるにしても、家庭の中の状況が表面化することもデリケートな問題としてあるということが、ご意見だと思いますので、その辺も含めて一つの方式を考えていかなければなりません。今日はいくつかの方向、方式を決めるいったところまでは元々求めてはいませんが、一つだけ感覚としては、民間に頼むにしても、この町の産業構造や市場から考えたときに、受入れる環境がなく、民間市場に委ねるにしても、4億円くらいの投資がかかります。町が結果的には、ある程度保証していかなければこの投資も民間は手を挙げることはないだろうと思います。議会との関係もあります。最終的にどこかで方式だけは決めなければならないことは、私自身も思っています。それにはきっと検討委員会との絡みもあり、タイミングだけが独り歩きすることは無責任にもなりますので、どこかで教育長にてひとつの方式を決め、その合意形成とし、それに調査義務を付けるというのが、事務の現実的な進め方になるかと思います。早い段階で結論を付けて、調査していくという、そういうことかと思います。これについて、ご意見ありましたらいただきたいです。

(教育長)

…町長が申しましたとおり、この間に中学校給食の話題が出てきて、「どうなっているんだ」、「中学校給食なくなったんじゃないか」と、何度か私からお話しさせていただいていますが、この後報告する今後の学校のあり方を各地区で説明させていただいている中に、「中学校給食終わったんじゃないんですか」、「やめたんじゃないんですか」というご意見もありましたので途中経過とはいえ、議会にも報告させていただき、また、教育委員会定例会、総合教育会議にも出させていただいたのが一番の発端でございます。そういった中で町長の申しますとおり、令和5年度においてははっきりとした方向性を決定するのではなくて、スケジュール感をしっかりお示しした中で、そのスケジュールが多少変わる可能性はあるかと思いますが、スケジュール感をお示しした中で検討したいと考えております。

(冨田町長)

…スケジュール感の具現化・具体化は、やはり方式を決めなければ進めないものですが、この三つの方式をそれぞれスケジュール感も精査するというのは結果的には煩雑になり、結論が出にくくなってしまうと思いますので、どこかの早いタイミングで皆さんの意見をいただき、事務局で整備して、それに

基づいてスケジュール、それに対する調査費用も含めて検討しなければなりません。今、現実的には、そこをはっきりさせるということが、かなり迫られているという状況だと思います。また、先ほどの暫定的な考え方、これについても、こういった形であれ空白ができますので、この空白を埋めるための、デリバリーのデリバリーみたいな話になってしまいますが、そこも早めに業者の市場調査をしなくてはなりません。場合によっては、その方式では温かいものが無理ではないかという、いくつかのマイナス要因などの前提もしっかり整理し、その中で暫定的な方式を作りながら本格稼働に向かって動いていくというのが普通に考えられるスケジュール感かなと思います。その部分も含めて積極的に調査をしていくことが必要かなと思っております。よろしく申し上げます。

(山田委員)

…方式について、今議論があると思いますが、併せて子どもたちが一体どういった給食を食べるのか、というのもすごく重要な観点かなと思いました。学校給食というと学校の中で子どもたちだけが食べるものだとは思いますが、それが大きく考えたときには、まちづくりの中の一つなのかなと感じています。たとえば、京都府伊根町は2000人弱の町ですが、日本一給食がおいしいと言われていたり、長野県佐久穂町の新しくできた大日向小学校では、給食を地域の人と一緒にバイキング形式で食べられるときもあります。やはり、子どもたちが給食を通じて、この町で暮らしてよかったとか、うちの町の給食ってホントおいしいよねって思えたり、例えば、三原市と交流したときに「どんな給食食べているの?」「うちの給食すごいんだよ」って子どもたちが笑顔で話しができるとか、オーストラリアのポートスティーブンス市でもそうですが、りんごとパンだけ持っていくとかという中で、湯河原町ってこんなの食べているんだよというのを、子どもたちが誇りに思うことができることにつながる、給食の時間がただ栄養を取る食べ物ということだけではなく、給食を通じて子どもたちが湯河原町に愛着を持つ、この町で暮らしてよかったと思える、この町の給食を食べたくて移住するご家庭が増えるとか、かなり長年をかけてる一大プロジェクトだと思いますので、そういったところも含めて、違う部分も一緒に考えられるといいのかなと思いました。

(教育長)

…ご意見ありがとうございます。非常に難しいとは思いますが、併せて検討

したいと思っております。先ほどのデリバリーの暫定の暫定も含めて、検討委員会、PTAの方、学校の方と一緒に、ご意見を吸い上げながら、そして教育委員会、総合教育会議でという流れで進んでいきたいと思っております。

(富田町長)

…ありがとうございます。まさに給食はただ料理をすればいいのではないということだと思います。

この件につきましては、議会側に対する説明も必要だと思いますし、その辺も含めながらスケジュール感を持って進めて、方式の最終的な決定を早めにするという形になると思いますので、またいろんなお知恵を借りられればと思います。よろしくお願ひします。

(2) 今後の町立幼稚園及び小・中学校のあり方に関する意見交換会について
…資料No.3

○資料No.3を説明(学校教育課)

○質疑

(貴田委員)

…まず、教育長はじめ教育委員会の職員の皆様、これだけ何回にもわたる意見交換会をご対応いただきまして、どうもありがとうございました。大変だったと思いますが、意見をくみ上げてくださって、ありがとうございました。意見交換会の全体的な私の印象としましては、まず、教職員の皆さんの意見もあると思いますが、本音ベースで皆さんそれぞれの立場で意見を言うてくださってございまして、その意見が大変参考になったと考えております。その一方で一つの意見としまして、意見交換会に出席されている方がちょっと少なく、これだけ少数の意見で集約していいのかなという意見もあったと思うんです。確かにそこも強調されてございまして、一つの私の偏見になってしまうかもしれませんが、多少意見に偏りがあるのかなという印象を受けていますので、これから具体的なことを決めていく中で多数の意見をくみ上げていく必要があるのではないかなと考えております。あと意見の内容について、小規模校に活力がない、感じられないとか、活力がある学校は児童数が多いだとかの意見が結構多かったのではないかと思います。私の認識だと、小規模校に活力がないとは思っていません。資料2ページの「活力のある幼稚園、小学校及び中学校とは」、の解釈がそういった誤解、解釈違いを生んでしまったのではないかと考えております。私の認識ですと、ここに挙げている活力ある学校とは、人に触れる機会・場ではないので、そこら辺を教育委員会

の意図とは違う解釈をされてしまったのかなと感じております。また、私の意見ですが、学校統廃合の影響が地域に根差した教育のしやすさに関連することを言われてしまうとぐうの音も出ず、本当にその通りだと思います。そこは地域ということだけを考えないで、極論を言うと、学校は多ければ多いと考えていますので、本当にそのとおりだと思います。例えば文科省の適正規模に関してなのですが、今数字が出ています、小学校でいうと 35 人、40 人とか出ていますが、文科省は常に教育の研究をやられてらっしゃって、様々な統計的な情報やその情報をもとにシミュレーションをやられてそこで導き出された結果だと思いますので、ある意味一般的な日本の今までの教育には適正な値なのだと私は思っています。ただ、湯河原町を考えたときに湯河原町の風土や今までの文化を受け継いでいる子どもたちのことを考えるとそれだと多いという意見はとても建設的でよいと思うのですけれども、ただ単純に 20 人とか 30 人が適正ではないかというのは、総合的な子どもの授業以外の適正も含めてあまり考慮されていないのではないかという印象を受けました。

(西山委員)

…私も活力が児童生徒の数だけではないだろうなという、先ほどの貴田委員の捉え方に同感です。それぞれの学校規模に応じて教員、学校全体での創意工夫によって子どもたちの教育活動がなされているわけですから、こういった形で意見を寄せてくださった多くの保護者の方や教職員、地域の方々も日常の子どもたちの学校生活を直に見て、感じて、そして、こういった教育って子どもたちに伝わっているのかなというような部分で、この感想といえますか、こういう意見を出してくださったのかなと考えております。数だけでくみ取っていくのはどうかと思います。全体を通して感じているのは、こういった問題、課題が生じる前から、学校というものが地域の様々な生活活動に果たしてきた経緯、役割が、心の部分と非常に大きなものを持っていると思います。ここにいらっしゃる皆様方もそれぞれの学校生活を送ってきたわけですから、それなりの思いが当然あるわけです。この 3 校にかかわりがある町民の方々のご意見の中には、多くは自分の学んできた母校に対するいろいろな思いとか、今の地域に係る思いとかいろんな部分が入っていると思います。そんな中で意見の中に湯河原町の教育の素晴らしさをもっとアピールしようじゃないかというような部分が出ていました。アピールすることが移住かどうかは、私は違う考え方を持っているのですが、少なくとも子どもたちやそれに関わる教員、地域が湯河原町の教育に関わる部分の誇りみたいな

もの、自信みたいなもの、ひいてはそれが町全体に対する思いだとか、湯河原町の魅力だとかそういったようなことと結び付けながら教育活動が進められたらいいのかなと、そんな思いを集約から見て取りました。こういった問題でやっていきますとどうしても数の論理というような形で、これでこういった意見が多いからということではなくて、町の5年後、10年後その先の子どもたちの教育というのを考えたときには、場合によっては大きな結論を下さなくてはいけない、これはわかりますが、ただこの決断に至るまでその部分について検討すること、子どもたちを抱える保護者に地域の人たちもいろいろな地域の人たちの思いも巡らせながら、それに対する湯河原町の学校教育に対する思いみたいなものを訴えてくれる、それをどこかで、そのくみ取ったものを整理したうえで、結論を下す。それは、その時になったら従いたいなど、それまでは、いろんな声をもっと聴く必要があるのかなと思っております。

(深澤委員)

…私はこのあり方検討会に何度か出させていただいて、文字になっていない言葉のニュアンスとか、提案をしてるけど本当は思いがあるとか、非難しているようでも思いがあるとか、そういうことも場においてくみ取らせていただきながら、聞いておりました。今はまだ8月～12月の4か月だけでいうと人数的にも少ない意見だったりするかもしれませんが、もう少し多くの意見が取れるように、検討会に来ている方だけでない方々もたくさん意見を持ってらっしゃって、皆さん湯河原町のことを良くしていきたいという思いがあるなという方々がたくさんいらっしゃるのを感じているので、私たちよりも職員の方が実際に町の人たちとあって、会議では現れないような屈託のない会話の中に、町への応援が入っているような感じがしました。あり方会議というと批判的であったり、極端な提案みたいな言葉のニュアンスになっていると思うのですが、そういう人たちも実はそこまで言いたいわけではなく、どれくらい聞いておいてもらいたいかわからないからここまで言葉が出ちゃった、というのも含めての極端な意見もあるかもしれませんので、少しずつ意見の場としてのこともそうですけど、いろんな意見を拾っていったらいいのではないかと思います。学校のあり方とか給食とかは検討が大変ですけども、変化していけるチャンスで、ここで湯河原町が大きく、日本の中で湯河原町を有名にしようというわけではないですが、住みやすい土地だということ町の人を実感して、実感があふれて移住したい人が増えるという存在の仕方が一番良いのではないかなと思ってます。あり方検討会は批判的と

か攻撃的とかいう意見もありましたが、この人たちはこの町を愛しているからわざわざここにきて言ってくれているんだなと思いました。教育委員会の会議の中でも一度言ったのですが、「応援される行政」になっていくような、町の人たちと一緒に協力し合える形をとれるような、ある意味湯河原町の「湯」の暖かさがみんなに出てくるような、教育基本方針にも「魅力ある」と言うのが、教育長が一番大事にしているので、魅力ある土地や、魅力ある人を作っていくにはお互いに聞きあうっていうことを一緒にやっていただけたらいいかなと思っております。少しずつですが、今始まったことがチャンスだと思ってます。私もいろいろと意見を聞いていこうと思います。

(富田町長)

…この件につきましては、もっと意見を聞きながらということももちろんですけれども、時間をかけながら丁寧にやっていかななくてはいけないということが皆様の総意ではないかと思えます。過去にもこういう意見がありましたし、吉浜小学校は150周年の記念、湯河原小学校も150周年。これだけ長い歴史がある学校というのは、ある意味難しいのではないかなと思います。逆に言うと、今まで学校の一つの統廃合を含めてその期の子どもたちではまだしなくてよかったが、それがいよいよ現実的にはこの議論を避けては通れないという環境が迫ってきているという側面と、意見の中でも将来像を含めて、現行の状態に対するご意見も入っているのかなという印象もありますので、この辺の進め方と意見の聴取の仕方も含めてどのようにしていくのかということも今日の皆さんの意見からは、そこが重要なのかなと私も思ったところであります。事務局は何か今後のことでありますか。

(富士川参事)

…あり方につきましては、今後頂いたご意見を参考に今後の町立幼稚園及び小・中学校のあり方を令和5年度中に策定したいと考えております。

(富田町長)

…そうすると、今回のこの意見以外に意見聴取をするという、チャンスは考えているのでしょうか。

(富士川参事)

…今回こういうご意見をいただいたのが、学校の適正配置に関する考え方についてご意見をいただきましたので、いただいたご意見を参考に今後の学校

のあり方を策定したいと考えております。その際にはまた地域を回ってご意見をいただければと思っております。

(富田町長)

…そうすると、意見をもう少し聞いた方がいいというお話もあったわけですが、交換会を開く方式や違う形での意見の聴取というのもできると思うのですが、その辺はどういうスケジュール感を考えているのでしょうか。

(富士川参事)

…今いただいたご意見で、意見交換会にご参加いただいた方はだいぶ少なかったという印象を持っております。スケジュール的に今後地域を回るということはなかなか難しいと考えておりますので、ホームページ等を通じてご意見をいただくなど今後検討させていただきたいと思えます。

(富田町長)

…ご協力いただいた方々と、実際に通学している方々との意見のバランスは、この表からだけだと読み切れないのですが、保護者延べ 30~40 人くらいだと思います。ホームページ上でどのように周知するか、または、学校にご協力をいただいて学校関係者の意見のある程度聴取をするか、これはホームページ上でもいいと思えますが、もう一度考えて、スケジュール感を足して考えた方がいいと思えます。

(富士川参事)

…ホームページと説明させていただきましたけれども、何らかの機会、学校を通じてなど再度意見を聴取させていただければと思えます。

(富田町長)

…どういう方向か具体的にはまだお示しできませんが、その意識をもって次の報告までの間に、もう少し意見聴取をしていただく努力をしてください。そういうイメージで皆様のご意見はよろしいですね。

(西山委員)

…私も先ほど、もっと多くの意見をというような内容を述べたかと思うんですけども、改めてこの一覧を読ませていただいたときに5年、10年後になると自分の子どもは学校生活が終わりだから、関係ない似的なそういった方も

いらっしゃったとみております。ですから、いろんな立場の方のご意見を一人でも多く伺った方がいいのかなという考え方で、その方法についてはいろいろとあるかと思いますが、場合によっては次の教育委員会の定例会あたりで、またみんなで話し合ってもいいかなと思います。やはり少しでも多くの町民の意見を聞いた方がいいのかなとそういう意味合いです。ですから、これだけ聞いてこの倍の人数がいいとかそういったことではないです。この問題について考えてもらいたいと、その思いを伝えてほしい、そういった中でこれからの町の教育に施設的にはどういようになるかと思っておりますけれども、その方向性が見出していけたらなとそんな思いがあるからいったと、ほかの委員さんもそういう思いではないかなと思います。

(富田町長)

…要はすぐにできる話しではないでしょうから、現実味のある方法でもう少し意見聴取というものにウエイトを置いた方がいいんじゃないかということだと思いますので、それで先に進めていかないと、ある程度の方向性を出すにしても逆に意見が少なすぎたということで議論がまた戻ってしまうのも非常に無駄というか、いけないことだと思いますので、そこは次の定例会か何かで方式を伝えられるチャンスつくって皆さんにお披露目をしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

6 その他

○湯河原町わかもの会議について

(山田委員)

…湯河原町わかもの会議という形で3月25日の午前中に中高生たちが駅前の居場所対話をする日があります。この日の午後は町民体育館でジュニアリーダーズと一緒に、湯河原町の中高生たちが主催でスポーツ大会が開催されます。このチラシ自身も実際に中高生たちが自分たちで作っていて小学生が今回は対象ではないのですけれども、中高生たちの思いとしては小学生がいると自分たちが見るリーダー役になるので、本当に中高生たちだけで純粋に楽しみたいなということで企画をしています。先ほどのあり方に関する意見交換会の話もあったと思うのですが、そういった話も3月25日にすぐできるかはわからないのですが、こういったわかもの会議という中高生を中心とした対話の会議で取り上げられるといいなと思いました。特に湯河原町出身の大学生たちもいますので、大学生は5年後10年後となりますと子育てをする世代となってきますので、彼ら自身が5年10年前に自分たちが小学

生だった時の経験と、10年後に自分が子育て世代になった時に自分が育った小学校で子育てをしたいと思うかみたいところがちょうど議論するのに一番いい年齢なのではないかなと思いました。中高生は町にいるんですけども、大学生は出て行ってしまうと、なかなか実家にも春休みに帰ってこないみたいなケースもあるので認知するのが難しいかもしれないんですが、うまく湯河原町出身の大学生も含めた対話の場っていうのができるとすごくいいなと思いました。是非ご興味のある方いましたら午前中はよろしく願いします。中高生たちが湯河原町の未来について本気で語りたいたいという、すごく熱い思いを持っております。午後は自分たちでバブルサッカーというものをやるみたいです。金額がすごい高かったのを自分たちで何とか頑張って調達をしたようです。よろしく願いします。

(富田町長)

…できればこの午前中の中に学校のあり方とか給食に対する考えも出てくればと思います。

(深澤委員)

…この子どもたちの対話の場はすごくいいなと思っています。何がいいかというと、大人は目標に向かって会議をし、目標設定で動いてしまいますけれども、この対話では、良い、悪いとかではなく自分が今こう思っているよということをこの輪の中に出していくというこの感覚が、学生はこれからコミュニティとしてすごく大事な時期に入ってくると思いますので、そういう意味でもさっきのあり方検討会とか、会議をするのではなく、思っていることを言葉にするという場を湯河原町にたくさん作っていく、言葉にしていんだっていう場を作っていくっていうのも、山田委員のような素敵なファシリテーターもいますので。皆さん会議のやり方は知っているけど、ファシリテーターのやり方は知らないなので、それを見ながら実際に場をファシリテートして、あたたまっていく中で、人間力が育っていくっていう、そういうことができる場を町としても作っていくっていうのをしていきたいなと思っています。

(富田町長)

…行政では、皆様に集まってもらおうと何か言わなければならないというプレッシャーがかかってしまうようなこともあろうかと思われしますので、悪い意味ではなく、行政では拾いきれない隙間の意見をこういうところから出して

いただけるといいのかなと思いますので、よろしくお願いします。

7 閉 会